

みゅーじあむ・船橋

令和6年9月

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ・船橋
Vol.23



第23号

博物館ニュース

[2]

吉澤野球博物館資料展示室より

知っていますか？ 早慶戦人気を裏付ける「リング事件」

[3]

船橋の明治・大正・昭和 味わい深い船橋の佃煮

[4-5]

船橋の遺跡を知ろう！ 発掘調査で見つかる泥めんこ

[6-7]

インフォメーション

[8]

博物館ニュース

郷土資料館

火鉢いちおし選手権

郷土資料館では、令和6年1月20日から3月31日までの期間で企画展「くらしの道具展― 寒さをしのぐ温故知新」を開催しました。そのスピンオフ企画として開催されたのが「火鉢いちおし選手権」です。

郷土資料館は昔の暖房器具「火鉢」を多数所蔵しています。その中から企画展担当者が形状・素材・来歴などに注目して8点の火鉢を厳選し、2階展示室近現代コーナーに展示しました。そして展示台に投票箱を設置し、来館者に好きな火鉢の投票をしてもらいました。

開催期間中、投票結果は週ごとに集計を行い、最終的には有効投票961枚の得票をいただきました。右の写真は最多得票に輝いた富士山や鶴の描かれたおめでたい柄の火鉢です。

なお、この火鉢は郷土資料館で行っている「なぞときクイズラリー」の景品である5種類のミュージアムカードのうち、「火鉢」の写真に抜擢されました。クイズラリーに挑戦すれば様々な資料のカードを進呈しますので、奮ってご参加ください。



投票数 1 位の火鉢

飛ノ台史跡公園博物館

とびはくの夏休み「とびはく大冒険」、「第23回縄文コンテンポラリー展inふなばし」

飛ノ台史跡公園博物館では、令和6年7月20日から「とびはく大冒険」、21日から「第23回縄文コンテンポラリー展inふなばし」を9月1日まで開催しました。

「とびはく大冒険」では、博物館をより楽しめるクイズラリーを今年も実施し、解答者には「とびはくキャラクター」と「とびはく所蔵土器」をデザインした缶バッジを先着400名にプレゼントしました。また新しい試みとして、第1回とびはく所蔵土器投票を行いました。来館者の方には、エントリーされた12個の縄文土器の中からお気に入りの土器を選んでいただき、ナンバーワンの縄文土器を決定しました。合計投票数は619票、1位の縄文土器は102票を獲得した「縄文中期の土器」でした。投票結果は館内に展示中です。



投票数 1 位の縄文土器



山岸 俊之
「時空を超えて歩く縄文」

「第23回縄文コンテンポラリー展inふなばし」では、当館に所蔵されている縄文土器や土偶といった縄文時代（原始）の創造物から受けたインスピレーションを基に、アーティストの自由な想像によって生み出された作品を展示しました。本年度は6名のアーティストが「風土～縄文の造形と世界～」をテーマに、多くの作品を生み出しました。7月21日のオープニングイベント「縄文アートまつり」では、「縄文植木鉢でカンタン盆栽に挑戦！」のワークショップ、6名の展示作家による「アーティストトーク」、人形劇パフォーマンスが行われ、194名の方が来場されました。他にも「カラフルな樹脂ねんどでオリジナル土偶を作ろう！」、「木のカケラで作る縄文のいきものたち」などのワークショップが開催され、194名が参加しました。会期中には、2,939名の来場者があり、多くの方が「とびはくの夏休み」を満喫したのではないのでしょうか。

知っていますか？ 早慶戦人気を裏付ける「リンゴ事件」

吉澤野球博物館資料展示室では、年1回企画展を開催しています。

今回は、令和5年度企画展「早慶戦の大乱闘～リンゴ事件から90年展」(令和5年7月22日～8月21日開催)の成果を基に、「リンゴ事件」について紹介します。

「リンゴ事件」ってなに？

かつて、大学野球はプロ野球を凌ぐ人気を持っていた時代があり、特に早稲田大学(以後「早稲田」と略す)と慶應義塾大学(以後「慶應」と略す)の早慶戦は、試合を一時中断しなければならないほどの人気ぶりでした。

「リンゴ事件」は、昭和8(1933)年10月22日、早稲田対慶應の3回戦で起きた事件です。試合の9回表、水原茂氏(慶應)が早稲田の応援席から投げこまれたリンゴを応援席に投げ返したところ、水原の行動に触発された早稲田の応援団が、試合終了と同時に、慶應のベンチ・応援席に乱入する大乱闘となりました。

企画展では、吉澤善吉氏が行ったインタビュー、「リンゴ事件」当日のチケットのほか、早稲田大学・慶應義塾大学から借用した資料を展示し、「リンゴ事件」および早慶戦について紹介しました。



写真2：早慶戦の結果を捺印した記事

「試合結果を捺印した記事」(写真2)には、「早稲田の応援席から投げこまれたリンゴを、水原茂氏が投げ返したところ、水原の行動に触発された早稲田の応援団が、試合終了と同時に、慶應のベンチ・応援席に乱入する大乱闘となりました。」と記述されています。また、岡泰三氏(慶應)の「内野と外野の応援団がダアーツと雪崩込んできたんでね。マネージャーが「危ない」といったんで、腰本さんを引きずりおろして、地下道を通して、選手の脱衣所の方へ逃げたんです。」など、選手にしか分からないリンゴ事件の裏側が明らかになりました。

吉澤野球博物館資料展示室では、定期的にテーマを決めて資料の入れ替えをしています。是非、展示もご覧頂ければと思います。

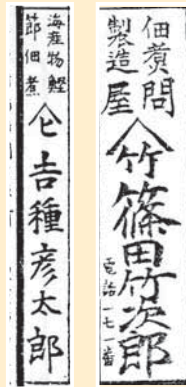
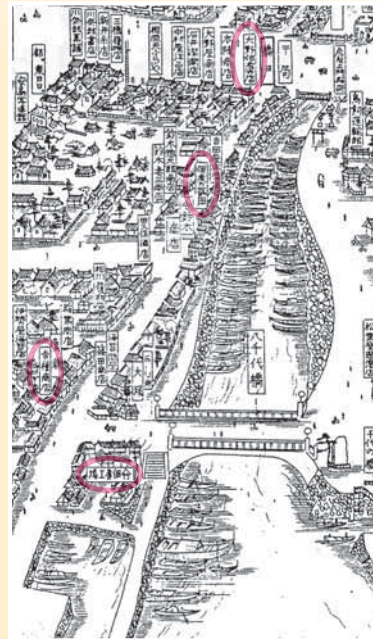
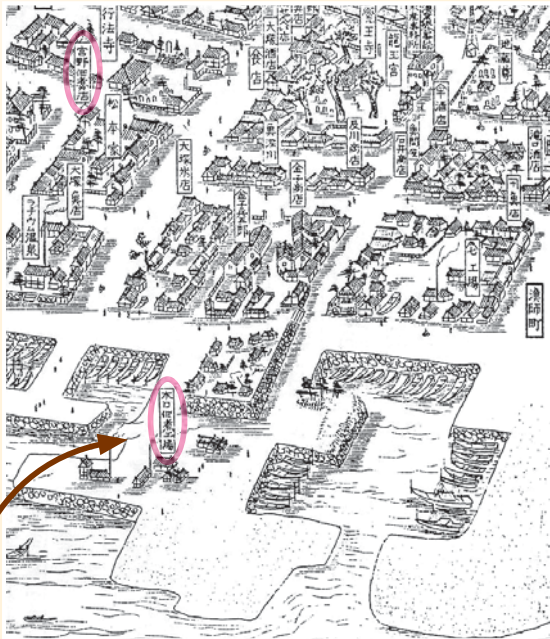


写真1：令和5年度企画展のチラシ

写真2の新聞では、試合前の様子のみを記し、結果はスタンプにすることで当日に早慶戦の結果を伝えられるように工夫していたことが確認できます。

また、吉澤野球博物館が行っていたインタビューからは、佐藤茂美氏(早稲田)の「飛び降りてみたものの選手はいないもんだから、やり場がなく、慶應の応援席の方へ行って、例の指

味わい深い船橋の佃煮



松井天山「千葉県船橋町鳥瞰図」(昭和2〔1927〕年、成田山仏教図書館所蔵)よりトリミング

※昭和36(1961)年度の『船橋市商工名鑑』には、営業種目「煮豆、佃煮 製販」の木口食品(株)が載っています。

松井天山が描いた船橋町の鳥瞰図を見ると、昭和2(1927)年頃の船橋町に、佃煮を扱う工場や商店が多かったことに気がきます。海老川の河口にあった篠田佃煮工場は、大正13(1924)年1月創業で、昭和10(1935)年時点の従業員は4名だったそうです⁽¹⁾。鳥瞰図裏面の広告からは、海産物や鰹節とともに佃煮を扱う店もあったことがわかります。

1 廉価な保存食として 江戸時代～明治頃

名称が佃島(現東京都中央区)に因むとも言われる佃煮は、江戸時代に、廉価な保存食として江戸の庶民に普及し、参勤交代の武士が江戸土産にすることもあったそうです。当時の魚介類は、冷蔵設備がないため、長持ちしませんでした。そこで、干物・塩物・練り物・佃煮などに加工され、江戸などの消費地に運ばれることが多かったのです⁽²⁾。船橋の海で獲れたアサリやノリを材料とした佃煮も、弘化元年(1844)頃に始まったと伝えられ、明治になると、盛んに製造されるようになりました⁽³⁾。

2 乾燥原料佃煮の登場と工業化 大正～昭和初期

昭和40(1965)年当時の日本佃煮工業協同組合事

務局長は、「大正年代」に、従来からの「ナマ原料佃煮」だけでなく、乾燥した水産物が佃煮に加工されるようになり、佃煮工業の分野が急激に広がり、発展したと述べています⁽⁴⁾。また、船橋の漁師町の女性は、昭和初め頃の夏の昼食の例として、麦飯とおつけ(吸い物・味噌汁のこと)、煮豆、ぬか漬、つくだ煮などという献立をあげています⁽⁵⁾。この献立の例をあげた家は、「夏はものがいたみやすい」から、こぶやあみのつくだ煮のようなものでご飯を食べることが多かったそうです⁽⁶⁾。

船橋の佃煮は、贈答用の品としても選ばれました。昭和12(1937)年の市制施行前に船橋町で営業していた佃煮店は、佃煮を、「旅行用及御進物等は便利に調達仕り候」という文言とともに売り出しています。



三上佃煮店のちらし
船橋市西図書館所蔵

3 工場の大規模化・販路の拡大 —昭和20～40年代—

本市の特産品であり、名産として全国各地に販売網を拡充しつつあります佃煮・煮豆・惣菜類は最新の設備を誇る近代工場で衛生的に製造され、消費者より好評を博しております。

上の文章は、昭和39(1964)年に船橋市が発行した『観光と産業』(郷土資料館所蔵)のものです。煮豆と佃煮の写真を見られる見開きのページでは、土産物に適した「ふなばし名産」として、「海苔、あさり、ハマグリ、佃煮、煮豆」があがっています。

先に紹介した日本佃煮工業協同組合事務局長は、昭和40年当時の状況について、「つくだ煮製造工業は、東京、名古屋、大坂、広島などに多く続いて尾道、京都、船橋、姫路、神戸、岡山、函館などとなっている」と述べています⁽⁷⁾。そして、佃煮工業の特徴として、①消費人口の多い大・中都市を中心に発展してきた、②手工業に頼る部分が多く、オートメ(オートメーション)化が難しく、大企業化しにくい、③そのため、100人以上の従業員を持つ企業のほとんどは佃煮専業でなく、煮豆・珍味・惣菜・でんぶなどの製造加工を兼ねていると説明しています。

昭和26(1951)年刊行の『佃煮便覧』に収録された「全国佃煮製造業者名簿」には、千葉県66、うち船橋市13(本町3、湊町7、宮本町3)の業者が載っています⁽⁸⁾。しかし、14年後の日本佃煮工業協同組合加盟業者数は、千葉県11、うち船橋市8で、小規模な佃煮製造業者の廃業・転業が増えていた様子を窺えます⁽⁹⁾。昭和2,30年代の東京湾岸地域では、都市化や生活環境の変化に伴う川や海の汚染と漁獲高減少、海面の埋立に伴う漁業権放棄や業種転換が見られました⁽¹⁰⁾。そのような流れの中で、船橋市では、近代工場で煮豆・惣菜類とともに佃煮を製造し、全国に販売する業者も登場しました。

石井食品(本町)は、電気工具製造を目的とした会社として昭和20(1945)年に創業したものの、翌年に火災で全焼し、食品加工業に業種を転換しました。この業種転換について、昭和37(1962)年当時の取締役社長は、「船橋の特殊性(農水産物集散地)と不肖の経験(栄養士)を活して食品加工が有利と考え、佃煮製造を始め、石井産業と改称いたしました…当時は、



商工会議所屋上から見える佃煮工場の煙突
手塚博禮撮影 昭和45(1970)年

調味料の入手が全く困難でありましたので、アサリの茹汁や、自家速醸の正油の使用により、製品は非常に好評を得、全国各地より取引の申込が殺到し今日の販路の基礎ができました」と述べています⁽¹¹⁾。

埋立地の中小工業団地では、昭和39(1964)年1月に、船橋佃煮(湊町)の新工場が稼働しました。昭和40年の記事によると、1,500坪の敷地で、1日に佃煮15トン・煮豆6トン・惣菜4トン・その他食品2トンを製造でき、「生貝類の佃煮を中心に各種食品の製造が大規模に行われてい」たそうです⁽¹²⁾。煮豆や惣菜と同じ工場で作る佃煮製造業者が多かった理由は、調味料や包装(真空パック)が類似し、効率的に製造できたからです。

原材料の種類や工業化の度合いが変わっても、家で食べたり知人に贈ったりする廉価かつ手軽な保存食として、変わらず船橋の人たちに親しまれてきた「船橋の佃煮」。今後は、消費者側の意識がわかる資料を探し、市民のみなさんに、船橋の食文化史の味わい深さをお伝えしたいと考えています。

注

- (1) 『船橋市の歴史—近・現代編—』(船橋市、1999年) 261頁
- (2) 青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』(小学館、2009年)
- (3) 『写真でみる船橋2 九日市』(船橋市郷土資料館、1992年)
- (4) (7) (9) 瀬戸貞「つくだ煮工業の現況」『食品と科学』7(9)(77)(1965年)
- (5) (6) 『日本の食生活全集12 聞き書 千葉の食事』(農山漁村文化協会、1989年)
- (8) 『佃煮便覧』(佃煮便覧刊行会、1950年)
- (10) 『浦安市史 生活編』『浦安市史 まちづくり編』(浦安市、1999年)
- (11) 石井毅一「ごあいさつ」(『会社の概要』石井食品株式会社、1962年)
- (12) 「佃煮工場拝見」『食品と科学』7(9)(77)(1965年)

(小田 真裕)

発掘調査で見つかる泥めんこ

「泥めんこ」とは、主におはじきのような円形をした粘土を型抜きした焼き物です。昔の遊びとして、博物館などで見たことがあるかもしれません。また興味のある方は、畑の端に落ちているのを見たことがあるかもしれません(図1)。

郷土資料館がかつて発行していた『資料館だより』の第55号(平成3年)と第58号(平成5年)でも泥めんこに関する文章が掲載されています。船橋市内を含む千葉県北西部の畑から頻繁に発見されることから、1970年代から90年代にかけて、地域の特徴的なものとして、収集や分類され、なぜ畑からまとまって見つかるのか等の研究が進められてきました。

なかでも『資料館だより』第58号に掲載された、金刺伸吾氏の「近世庶民文化の遺物—泥めんこ小論—」では、泥めんこの分類や、なぜ市内の畑から出土するのかがまとめられています。今回はそれを手掛かりに泥めんこをさぐっていきたいと思います。泥めんこについて、金刺氏によると、江戸時代中頃から出土し始め、後期になると最盛期を迎え、明治時代になると減少するとしています。また、なぜ船橋の畑から江戸時代のおもちゃが見つかるのかについては、江戸の町から運搬されていた下肥^{しもこえ}(町中で回収される尿尿)に混ざっていたものが畑に撒かれたからとする下肥説と、畑の豊穡^{ほうじょう}を祈って泥めんこを撒いたとする祭祀説の2つが有力とされています。表1の分類を見てわかるとおり、対象はいわゆる



図1 畑に落ちている泥めんこ (山本稔氏提供)

表1 泥めんこの分類

分類	特徴	船橋市内での報告数
第1分類	円盤状をしたもの	45
第2分類	型抜きをした裏面の平らなもの	15
第3分類	立体的なもの	10
第4分類	碁石状のもの	12
第5分類	粘土を丸めた球状のもの	4
第6分類	管状のもの	13
	合計	99

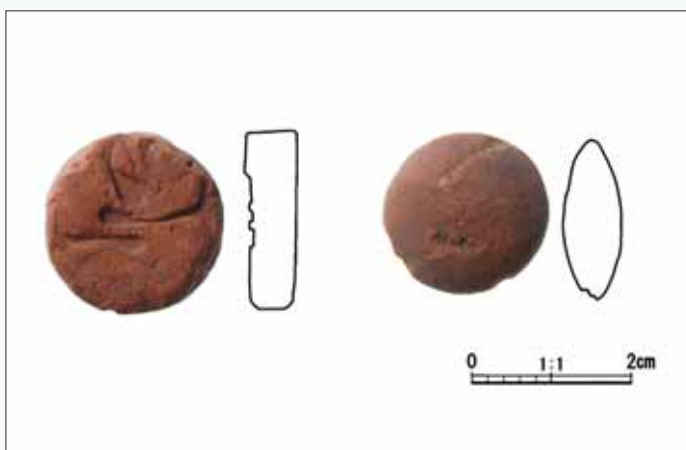


図2 宮本台遺跡群(1)で見つかった泥めんこ

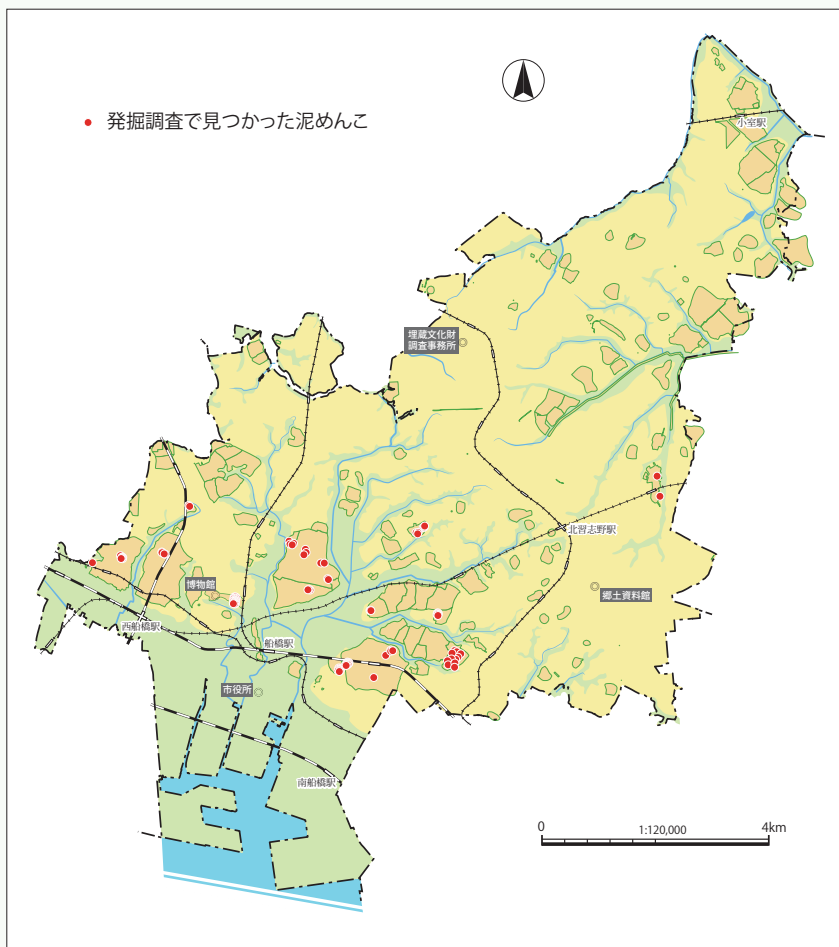


図3 発掘で見つかった泥めんこの分布

「泥めんこ」ばかりではなく、立体的なものや、碁石、球状のもの等、近世の遺跡から見つかる遺物の内、器や金属製品を除いた、比較的小さなものの全般と捉えることが出来そうです。

研究がはじまってから50年余り、その間に多数の発掘調査の成果が蓄積されてきました。全国的な発掘調査の成果は、発掘調査報告書などをWebで読むことが出来る『全国遺跡報告総覧』(<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>)を見ると、泥めんこは、江戸周辺の関東近県だけではなく、全国の遺跡から出土していることがわかります。本文のPDF登録があるものは全文検索をすることができるので、泥めんこを調べてみると、めんこの表記ゆれがあるようです。「泥めんこ」は71件、「泥メンコ」

は77件、「泥面子」は665件となっており、発掘調査の報告書では泥面子と呼ばれることが多いようです(令和6年6月20日確認)が、今回は船橋で研究を進めた金刺氏に習って「泥めんこ」とすることにしました。

市内の発掘調査報告書に目を向けると、99個の泥めんこが掲載されています(令和4年度末までに発行されたものを対象)。表1に市内で見つかった泥めんこの分類をまとめています。最も多いのは第1分類の円盤状のもの、次に第2分類の型抜きしたものが続きます。発掘で出土している泥めんこはさらに多いようですが、発掘調査の目的とする時代とは離れていることから、出土しても報告さ

れない場合もあるようです。今回紹介する宮本台貝塚(宮本台遺跡群(1))で見つかった泥めんこ(図2)も、報告書には掲載されず縄文土器に混ざって保管されていました。図2の右は第1分類の円盤状をしたもので、文様はひらがなの「ら」のようです。図2の左は第4分類の碁石状のものになります。

出土している場所は、図3のように市の南側が多い傾向にあります。江戸ごみとともに船橋に入ってきたという説に整合しているようにも見えますが、これは発掘調査が市の南側で多いことの影響もあるでしょう。金刺氏の集めた泥めんこの呼び方には市の北部のものもあり、市内の広い範囲に泥めんこは広がっていたようです。
(狩野 美那子)

インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。

※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転台を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和7年3月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
11月24日(日)	文化講演会「江戸時代の食文化」(仮) 共催：薬円台公民館	薬円台公民館 (船橋市薬円台 5-18-1)
12月 1 日(日)～12月28日(土)	写真展「新京成電鉄の風景」	3 階第 2 展示室
令和 7 年 1 月18日(土)～ 3 月23日(日)	企画展「船橋を『はかる』」(仮)	3 階第 2 展示室

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、土曜日・日曜日に有料ワークショップを実施しています。

【令和7年3月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
10月17日(木)	とびはく探訪会	史跡公園、1 階～ 3 階展示室
開催中～10月14日(月)	令和 6 年度船橋市出張美術展 「画家のメ、学者のメー柴宮忠徳の水彩画ー」 共催：文化課	1 階ギャラリー
10月 9 日(水)、23日(水)、 30日(水)	縄文大学	市民文化創造館（きららホール） (船橋市本町 1-3-1 フェイスビル 6 階)
11月 9 日(土)～ 2 月 2 日(日)	企画展「縄文と弥生—船橋の 縄文晩期と弥生時代—」	1 階ギャラリー
令和 7 年 1 月11日(土)、 18日(土)、25日(土)	考古学講座	海神公民館 (船橋市海神 6-3-36)

協力：
船橋市華道連盟

「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡



ご利用案内・交通案内

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
住 所 船橋市薬円台4-25-19
電 話 047-465-9680
F A X 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線 習志野駅下車徒歩 10分
JR 津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩 2分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入 館 料 一般 110円 (団体20名以上70円)
児童生徒50円 (団体20名以上30円)
市内在住中学生以下 無料
住 所 船橋市海神4-27-2
電 話 047-495-1325
F A X 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩 8分
京成本線 海神駅下車徒歩 15分
東葉高速線 東海神駅下車徒歩 12分
船橋新京成バス
JR 船橋駅北口から山手ループ線
「海神中学校前」下車徒歩 1分



休館日カレンダー

10月	11月	12月	令和7年 1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

■ は郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変更になる場合があります。

発行：令和6年（2024）9月30日 船橋市郷土資料館・船橋市飛ノ台史跡公園博物館
表紙写真：船橋市内で使われた子ども神輿 神保君雄氏撮影